

Ab-138

# これからの高校理科教育のありかた

2016年2月8日に発出した日本学術会議提言「これからの高校理科教育のありかた」を広く社会に発信するとともに、そのより具体的な実現に向けて、高校、大学、マスコミ、など多様な立場からの意見を聞いた上で、より広く議論を行う場を提供する。

<b>企画提供者</b>	日本学術会議科学力増進分科会
<b>開催日</b>	11/5 (土) 14:00-15:30
<b>会場</b>	A会場 (日本科学未来館) 7階 会議室3
<b>形式</b>	シンポジウム
<b>URL</b>	<a href="http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t224-1.pdf">http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t224-1.pdf</a> <a href="http://scienceportal.jst.go.jp/columns/opinion/20160315_01.html">http://scienceportal.jst.go.jp/columns/opinion/20160315_01.html</a>
<b>備考</b>	

## 登壇者情報：

須藤靖 (日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授)

宮嶋敏 (埼玉県立熊谷高校教員)

真貝寿明 (大阪工業大学情報科学部 情報システム学科教授)

青野由利 (毎日新聞論説委員)

戸田山和久 (日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授)

柴田徳思 (日本学術会議連携会員、日本アイソトープ?協会専務理事)

## タイムテーブル：

11/5 受付 13:30 開始 14:00 終了 15:30

【当日申し込み枠の定員】 100名

【来場者の当日申込み】 先着順

サイエンスアゴラ2016 「つくろろう、科学と共にある社会」  
キーノートセッション 2016年11月5日(土) 10時30分～12時



# 人獣共通感染症への挑戦

国際規模の人口移動や気候変動により、国際規模で流行する感染症が身近な疾病になりました。三つの話題とパネル討論を通して感染症に関する最新の知見と取り組みを紹介します。人は感染症といかにつきあっているのか、共に考えてみましょう。



## テーマ 「エマージング感染症との闘いー基礎研究と防御への取り組み」

講演者 甲斐 知恵子

日本学術会議第二部会員，東京大学医科学研究所感染症国際研究センター教授  
研究室 <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/jikkendoubutsu/top2.html>



## テーマ 「新しい公衆衛生のかたちータイ・チキンマイの狂犬病予防」

講演者 小田 光康

明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授，明治大学感染症情報分析センター長、ジャーナリスト 研究室 <http://odazemi.info/> ゼミ活動 <http://aroundtherings.jp/>



## テーマ 「未来を予測する感染症研究ー人獣共通感染症への挑戦」

講演者 水谷 哲也

東京農工大学大学院農学研究院教授  
農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センター長  
研究室 <http://tuat-animal-infection.pnsnet.co.jp/>

主催 日本学術会議科学力増進分科会

場所 A会場(日本科学未来館)7階 未来館ホール

(新交通ゆいかもめ「船の科学館」駅下車、徒歩約5分)

参加費 無料  
参加申込 東京農工大学 滋養研究室  
s\_kawa@cc.tuat.ac.jp



**11/6 (日)**  
**10:30-12:00**  
**入場無料, 資料あり**  
 受付 10:00 開始  
 先着 300 名  
 事前申込不要

# 災害とレジリエンス

## —平成 28 年熊本地震災害の教訓—

会 場：日本科学未来館 7 階未来館ホール

<https://www.miraikan.jst.go.jp/guide/route/>

### 開催趣旨

サイエンスアゴラは 2006 年から「国立研究開発法人科学技術振興機構」が主催して始められ、今年では第 11 回を迎え、11 月 3 日から 6 日まで東京・お台場地域で開催されます。

研究者・専門家と社会の様々なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的としています。

このたびのサイエンスアゴラへの一つの企画として、「災害とレジリエンス—平成 28 年熊本地震災害の教訓—」を開催します。災害に対するレジリエンスは予測力、予防力、対応力で構成されます。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靭性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を確実に迅速に進めるために、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論したいと考えています。

### 主 催

- 国立研-究開発法人科学技術振興機構 (JST)
- 日本学術会議 (SCJ)
- 科学と社会委員会科学力増進分科会
- 科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会
- 防災減災・災害復興に関する学術連携委員会

### 共 催

- 国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

### 後 援

- 内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、防災学術連携体

### プログラム

- 10:30 ~ 10:33 開会挨拶**  
林 春男（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）
- 10:33 ~ 10:47 「予測力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：地震動**  
平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 10:47 ~ 11:01 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：社会基盤**  
本田利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
- 11:01 ~ 11:15 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：宅地住宅被害**  
五十田 博（京大大学生存圏研究所教授）
- 11:15 ~ 11:29 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：応急対策**  
田口雄一（熊本県知事公室危機管理防災課審議員）
- 11:29 ~ 11:43 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：生活再建**  
林 春男（前掲）
- 11:43 ~ 11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性**  
米田雅子（日本学術会議会員、防災学術連携体幹事/事務局長）
- 11:57 ~ 12:00 閉会挨拶**  
小池俊雄（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授、水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) センター長）